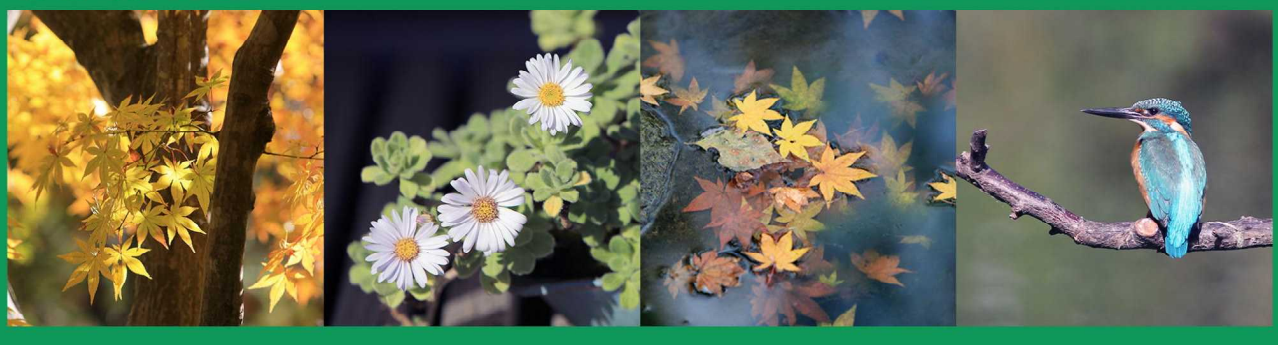
http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.285　13/11/14



# あなたの心と直感は

「iPad mini Retinaディスプレイモデル」がとうとう発売になった。欲しい…。この携帯型の端末は、いわゆるスマホやアンドロイド版のモデルも含め、すでに我々の生活にすっかり根付いていると思われるが、その原形を創り上げたのがスティーブ・ジョブスである。彼の生家が歴史的建造物か何かに指定されたというニュースを最近見たような気がするし、彼の伝記をもとにした映画も公開される（た？）ようだ（あまり評判は芳しくないらしい…）。急死してから２年、ますます伝説化が進んでいるのかもしれない。

彼は、

your heart and intuition somehow know what you truly want to become.

と語っている（「あなたの心と直感は、なぜかあなたがほんとうは何になりたいかのかを知っている…」）。含蓄深い言葉であると思う。

内田樹先生が彼のことを採り上げながら、次のような文を書いている。

＊

スティーブン・ジョブズも、マーク・ザッカーバーグもさっさと大学をドロップアウトして「他の方法」で世界的な富豪になった。たぶん中学でも高校でも、このお二人は先生たちからは「反抗的なガキ」として憎まれていたと思う。興味のない教科の勉強なんかぜんぜんやらなかったはずである。

彼らはたまたま英語を母国語とする国に生まれたから、英語を話したが、もし非英語圏で生まれていて「英語できないと、グローバル人材になれないぞ」と高校の教師に意地悪く言われたら、絶対に英語の勉強なんかやらなかったと思う。

「あ、そう。英語わりと好きだったけど、今お前がそう言ったからもう生涯絶対やらねえよ」というようなリアクションをするような人じゃないと、あそこまでにはなれません。

「やりたいこと」に達するために、しぶしぶ迂回的に「やりたくないこと」を我慢してやるようなタイプの人間は、どのような分野においても「イノベーターになる」ことはできない。これは自信を以て断言することができる。ぜったいに・なれません。

ビジネスマンとして、あるいは政治家として、あるいは官僚として、小成することならできるだろう。だが、「算盤を弾いて、『やりたくないこと』を今は我慢してやる」ことができるようなタイプの人間には「イノベーション」を担うことはできない。そういうものである。

だから、ジョブスやザッカーバーグを「グローバル人材」のサクセスモデルとして示しておきながら、「『グローバル人材』になるために、先生の言うことを聞いて学校の勉強をちゃんとやりましょう」と言ったって、それは無理なのである。「グローバル人材」と「学校教育」の間には相関性がない。ぜんぜん。

＊

面白い指摘である。が、ジョブズやザッカーバーグが「興味のない教科の勉強なんかぜんぜんやらな」かった…というのは、彼らが伝説的存在となった後の「事後的評価」であることも忘れてはならない。前掲の「あなたの心と直感は…」という言葉が重みをもってくるように思うのだが、どうだろう。